

立教女学院小学校

【理事長】大澤 眞木子
【校長】児玉 純

〒168-8616 東京都杉並区久我山4-29-60 TEL 03-3334-5102(代) <https://es.rikkyojogakuin.ac.jp/>
【交通】京王井の頭線三鷹台駅

光と風と緑の中の校舎で、 のびのび始まる学校生活

立教女学院の教育方針

キリスト教の信仰に基づき、宗教的信念と情操を養い、併せて女性にふさわしい人格、教養を形成することを教育の念願としています。

何をすべきか考え、実践できる人間に

毎朝の礼拝や週1回の聖書の授業、あるいは教師と児童との交わりを通して、児童が神の存在を確信し、自分が何をすべきかを考え、それを実践できる人になれるように教育を行っています。

- 健康で明るい子：全て人は、神様に愛されて造られました。与えられた賜物を十分に機能させることが必要です。体と心の健康と、朗らかな明るさがその土台です。
- すすんで行動する子：意欲と自発性が大切です。人との関わりの中で、よく考え、よく学ぶことが必要です。すすんで自分の力を発揮し、行動できる子どもを目指します。
- まわりの人を大切に子：人をやさしい心で思いやれることが大切です。自分の事のように相手を覚え、手を差し伸べ合える心を育みます。

「学びたい」「学ばせたい」「教えたい」に応える教育環境

グローバル教育●英語の授業は日本人教員1名、ネイティブ教員4名による少人数クラス編成。ICT環境も利用し、目にも耳にも楽しく英語を学んでいます。英語、英会話を学ぶことはもちろん、英語という言葉を通して異文化を知り、他者を理解する教育を行っています。

ICT教育●コンピュータ操作を学ぶだけでなく、リテラシーの伴った具体的な利用方法も指導。簡単なプログラミングにも挑戦します。アクティブラーニングルームには、iMacをはじめ、1人1台のiPadを完備。また、4年生以上は1人1台iPadを購入していただいています。

体験型学習●伝統的な軽井沢キャンプに加え、農業、漁業、林業などを学ぶスタディツアーといった宿泊を伴う多様なプログラムを学年ごとに用意。自然や生き物に直接触れるとともに、地元の方々と交流を通して、自然環境や農業、復興支援について児童一人ひとりが自ら考え、「いのち」の大切さを共に学び合う機会を設けています。

上級学校に進むには

卒業生（希望者）は、本学院中学校・高等学校へ進学し、一貫教育を受けることができます。また、一定の要件を満たす者は立教大学に推薦入学することができます（2010年4月中学1年入学者より、受入総数121名）。

創立者ウィリアムズ師

立教女学院はアメリカ聖公会から日本に派遣されて来た、宣教師ウィリアムズ師によって創立されました。彼は日本の人々がイエス・キリストにあらわれた神の心を知り、真の人生を生きるためにどんなことでもしようと思っていました。その決意の一つに、女子に対する教育がありました。人間がすべて神の前では等しい意味と価値を持っているのだということを、女子教育を始めることにより証したのです。彼は全生涯を日本の宣教と教育に献げ「道を伝えて己を伝えず」と称賛されるほどのまれにみる高德の師でした。同師の信仰と道徳は本学院の伝統の中に今日も脈々と生き続けています。



沿革

1877年、Bishop Channing M. Williamsにより、立教女学院が創設される。1908年、文部大臣の認可を受けて高等女学校となる。関東大震災により校舎が焼失したが、1930年に現在の高等学校校舎が完成。その翌年小学校が併設された。2002年、新校舎完成。

2022年度募集要項

募集人員：女子72人
出願期間：10月1日・2日・3日の消印有効
入学試験日：11月3日
合格発表：11月5日
【かかる費用（予定）】
入学金：300,000円
藤の会（保護者の会）入会金：10,000円
(1)学費（月額）
・授業料 54,000円
・教育充実費 10,000円
(2)校納金（月額）
・藤の会費 1,500円
・給食費 10,100円

併設中学進学状況

◆立教女学院中学校
※原則として希望者全員が進学可能

データパック

◆児童数432人／教員数24人
◆21年度応募者数：女子541人
◆合格者数：90人

【併設校】

○立教女学院中学校・高等学校